

第1回 遠州トラック旗
令和4年日本少年野球連盟静岡県支部秋季大会



2022年度スローガン
変える意識と勇気を持とう!



公益財団法人
日本少年野球連盟

期間 令和4年9月3日(土)10日(土)9月19日(月)9月23日(金)24日25日予備

会場 浜北球場/島田球場/韮山球場/南伊豆球場/菊川球場/渚園球場/愛野球場

主催 (公財)日本少年野球連盟 静岡県支部
(公財)日本少年野球連盟

協賛 遠州トラック 株式会社

⚠️ ボーイズリーグは一切の暴力、暴言を禁止しています。



Japan Boys Baseball

野球をしながら
団結・友愛・規律・勇気・忍耐
身につけよう

(公財)日本少年野球連盟定義 第3条

本財団は、ボーイズリーグを通じ、硬式野球を愛好する少年に正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて心身の鍛錬とスポーツマンシップを理解させることに努め、規律を重んじる明朗な社会人としての基礎を養成し、もって次代を担う少年の健全育成を図ることを目的とする。

公益財団法人 日本少年野球連盟

会長 惣田 敏和

本部 大阪市浪速区日本橋西1丁目3番19号

南海日本橋ビル2F

TEL. 06-6649-0061

第1回遠州トラック旗静岡県支部春季大会役員名簿

大会顧問	公益財団法人日本少年野球連盟	会長	惣田敏和
	公益財団法人日本少年野球連盟	副会長	堀内 健
	公益財団法人日本少年野球連盟	中日本ブロック長	松本行弘
	公益財団法人日本少年野球連盟	静岡県担当理事	杉浦真一
大会名誉会長	遠州トラック株式会社	代表取締役社長	澤田邦彦
大会名誉副会長	遠州トラック株式会社	常務執行役員	小澤宙通
大会会長	公益財団法人日本少年野球連盟	静岡県支部支部長	矢田正行
大会副会長	公益財団法人日本少年野球連盟	静岡県支部副支部長	瀧澤広行
	公益財団法人日本少年野球連盟	静岡県支部副支部長	宮本博之
		静岡県支部企画運営部長	鈴木貴司
大会運営委員長		静岡県支部行事委員長	池田竜司
大会運営委員		浜松ボーイズ代表	山本浩士
		島田ボーイズ代表	山田 登
		スルガボーイズ代表	初山 浩
		静岡葵ボーイズ代表	芦澤厚史
		静岡府中ボーイズ代表	熊切大介
		浜松北ボーイズ代表	富樫憲之
		大井川ボーイズ代表	森重明
		浜松修学舎ボーイズ代表	大木実
		御殿場ボーイズ代表	芹澤輝充
		静岡県支部	進士佳典
大会事務局			瀧澤佳孝
大会広報委員長	富士ボーイズ		中村好寛
大会広報副委員長	磐田ボーイズ		宮本浩和
大会会計	下田ボーイズ		高林俊光
大会審判団		静岡県支部審判長	
		静岡県支部審判団	

大会規定

- 1・チームの登録選手は中学生の部は 11 名以上 25 名以内（ベンチ入りは 20 名以内）とする。また、小学生の部は 11 名以上 20 名以内とする。
- 2・出場選手はその大会の登録締め切り日現在、連盟へ登録済みの者に限る。
- 3・審査証は当年度発行のものとする。
- 4・オーダー表記入選手 20 名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。但し各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5・組み合わせの若番号が 1 塁側のベンチ、後番号が 3 塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6・監督(背番号 60)、コーチ(背番号 50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 7・試合開始時刻 60 分前までに試合場に到着し、直ちにオーダー表を 5 部、投球回数記録副表 3 部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
- 8・オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
- 9・試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
- 10・試合方法など
 - ・中学生の部
 - (1)各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 2 時間（決勝戦は 2 時間 20 分）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - (2)4 回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4 回終了時）10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)7 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 8 回(決勝戦は 10 回)あるいは試合開始から 2 時間(決勝戦は 2 時間 20 分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)

(2)4 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。

(3)6 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 7 回 (決勝戦は 9 回) あるいは試合開始から 1 時間 40 分 (決勝戦は 2 時間) を超えては(どちらか早い方) 新しいイニングに入らず、タイブレーク方法を実施する。

(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)

11・(1) 中学生の部投手の投球数は、1 日最大 80 球以内とし、連続 2 日間で 120 球以内とする。

小学生の部投手の投球数は、1 日最大 65 球以内とし、連続 2 日間で 105 球以内とする。

(2) 打席の途中で制限数に到達した場合は、当該打者の打席が終了するまでは投球を認める。その時制限数を超えた投球数はカウントしない。

(3) ボークは投球数としない。ノーゲームになった試合も投球数にカウントする。申告敬遠までの当該打者への投球数はカウントする。その他、本大会は中日本ブロック HP 掲載の投球数制限ガイドラインに基づき行う。

(4) 日程の変更 (地区大会を含む) 等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛に提出しなければならない。

12・(1) 監督またはコーチの指示、伝達は 1 試合で攻撃 2 回と守備 2 回の計 4 回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで 1 回の指示、伝達を認める。

(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)

(2) 守備側の投手に対する指示、伝達が 3 回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。

(3) 内野手が 2 人以上投手のところに行った時も 1 回に数える。

(4) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30 秒以内」とする。

13・1 イニングで同一の投手に対して指示、伝達が 2 回目となれば、自動的に投手の交代となる。

その投手は他の守備位置に着くことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。

ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。

14・審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。

15・監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)

16・2 塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

17・ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18・投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19・小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチスボックス内でベースコーチを務めてもよい。この場合必ず両耳付きヘルメットを着用すること。

20・各チームは同色のヘルメット 7 個以上、捕手の規定防具 (マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ) 2 組を備えること。一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く。

21・ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

22・捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

23・グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

24・ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

25・光化学スモッグ発生の場合は、試合及び選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。

26・試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案してシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

27・守備側のチームの監督は球審に敬遠の意思を伝えると投手が投球することなく対戦打者を四球にすることができる（申告敬遠）。

参考

野球規則 7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち又は表の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点かたはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイプブレイク実施細則》

(1) 特別規則

(イ) 中学生の部は延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて（いずれか早い方）決勝戦は10回あるいは2時間20分を超えて（いずれか早い方）、決勝戦は9回あるいは2時間00分を超えて（いずれか早い方）両チームの得点が等しい時は以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打者の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打者が二塁走者、そして二塁走者の前の打者の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる

(2) チームおよび個人の記録

チームおよび個人の記録は公式記録とするが、如何に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打・無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。

- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録とする。

【AED所持の確認】

- ・選手審査時にチームはAEDを所持していることを確認すること

2022年3月6日
(公財)日本少年野球連盟

新型コロナウイルス感染防止対策 修正新ガイドライン(2022.3月改訂版)

1.ボーイズリーグの活動における基本注意事項(以下、「基本事項」という。)

(1)活動参加に際して

①選手・指導者・保護者等・役員等すべての関係者は、当日の検温を図り、熱・風邪症状(喉痛、咳、痰、呼吸症状)等の体調に異常がある場合は参加不可 ②感染拡大期はもとより、活動への参加を強制するのではなく、選手の保護者から同意をとり、チームとして常に参加の意思を確認する

(2)マスク着用の義務

①人との距離横1m、前方2mの距離が取れない場合(基本距離)マスク着用
②指導者、審判、保護者等の大人は、上記①に限らず大会、試合、練習含めマスク着用を基本とする
③屋内での活動は原則マスク着用
ただし、選手のみ練習・トレーニングする際にはマスクは不要
④大会・試合中は控え選手はマスク着用
なお、熱中症予防のため基本距離を置いて会話せずにマスクを外す習慣をつけること
選手はグラウンド内の練習・試合等においては上記①の基本距離、程度の間隔を十分にとるように配慮すれば、練習中、原則選手はマスク不要とする

(3)昼食等飲食時の注意

飲食する場合は、以下を遵守すること

- ①食事前等に手洗い、手指消毒すること
- ②前2m、横1mの距離をとる
- ③黙食とする
- ④保護者等が配膳する場合は、選手・保護者はマスク着用

(4)手洗い、消毒の慣行

活動の際には、こまめな手洗い・手指消毒と使用後の備品の消毒などの慣行をチームとして義務づけること

(5)備品・消耗品の常備

チームは手指用消毒薬、備品用消毒薬、石鹸、体温計、ペーパータオル等を常備すること

(6)活動参加者の把握(チーム内での感染拡大防止のため)

チーム及び大会等の主催者は、活動における参加者を「新型コロナウイルス感染症対策当日参加名簿」等の提出により把握しておくこと

2.主催大会、地区大会の注意事項

(1)大会開会式、閉会式について

- ①開催会場の了承を得て会場の規則と以下の事項を遵守したうえで開催を認める
- ②マスク着用の上、横1m以上の間隔をあけること
- ③主催者のあいさつ等は距離をとりマスク不要
- ④式はできる限り簡素化し、短時間での式運営に努めること

(2)大会運営について

- ①室内本部はマスク着用、必要最低限の者で運営を行う。換気を行ない、密を避ける。
- ②球場責任者は、各担当者を配置して、チーム代表に観客等含めて密にならないよう指導し、消毒液・手洗い用、ハンドソープ等を設置すること(本部席、ベンチ、トイレ等)
- ③各チームは試合開始1時間前に大会本部に到着すること
早く到着した場合は、大会本部・球場付近には集合せず、離れた場所で選手、保護者等に密を避け待機
- ④各チームは、チーム責任者が登録役員・選手名簿、オーダー表、「新型コロナウィルス感染症対策当日参加名簿」を本部受付に提出する
- ⑤チーム到着時、帰途時の挨拶はしない
- ⑥試合前審査は、コロナ禍前と同様に前試合の4回終了までに整列して行う。
但し、選手は氏名、生年月日を発声しない。球場運営責任者が指導者・選手などに「基本事項」1-(2)を説明・確認する。
- ⑦球場入場前に大会本部役員はチーム全員に検温、アルコール消毒を実施する
- ⑧試合開始に際し、両軍は前2m以上の距離をとり集合し、脱帽して声を出さずに礼をもって挨拶とする
- ⑨試合中は、チーム責任者は「基本事項」1-(2)をチーム内で徹底させること(観戦保護者等含む)
- ⑩試合終了後は密を避けるために速やかに会場から解散する
- ⑪接待・運営は密を避けて行うこと
1-(3)「屋食等飲食時の注意」を遵守する
飲料等については、配膳する前に手洗い・消毒
感染防止に配慮した使い捨て容器の使用を推奨する。使い捨て以外の食器等は合成洗剤で必ず洗浄すること
- ⑫その他細目については、大会主催者が本ガイドラインの趣旨に基づき大会運営細目を別途定めて大会を運営する

3.遠征・合宿等、入部歓迎会・卒部式・祝勝会等の行事について

(1)「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」時の対応

- ①「緊急事態宣言」発令中は原則、行事、遠征、練習試合等は禁止
- ②「まん延防止等重点措置」は、屋内での行事等は原則禁止

③その他、連盟通達等による指示に従うこと(一定の緩和措置等の発文等)

(2)練習試合・遠征について

- ①練習試合は、特に相手チームとの交流については「基本事項」を遵守すること
- ②都道府県をまたがる遠征については、当該自治体・教育委員会の規制に従うこと
- ③移動の際には、車中の換気を行い、マスク着用、会話を控えること
- ④全国から集まる大会(春季全国大会、選手権大会、鶴岡杯等)については、移動の際、上記③に加えバス・マイクロバス等は定員の半分相当で移動すること(※乗用車は除く)
- ⑤宿泊を伴う遠征は、宿泊先と協議の上、「基本事項」の遵守とソーシャルディスタンスに配慮したシングルユースを基本に食事時等に感染防止策を講じること
特に指導者・保護者等の大人は、酒類を伴う飲食は自粛すること

(2)入部歓迎会・卒部式・祝勝会・新年会等について

- ①当面は屋内での飲食を伴う開催に当たっては、事前に会場設営図や感染防止策を講じた開催要項について書面で支部長を通じて提出しブロック長の承認を得る
- ②会場との協議の上、3密を避け、ソーシャルディスタンスに配慮した設営を基本に、「基本事項」を遵守する
- ③酒類等の飲食を伴う場合は、都道府県・市町村長が定めたルールに従い、会場との協議を行い、「基本事項」を遵守した感染を避ける措置を講じること(会食には仕切り板や約2mの間隔が必要で乾杯時の人との距離に配慮し、酌の交換は禁止する等)
- ④屋外での開催は、「基本事項」を遵守し、特に1-(3)「昼食等飲食時の注意」を遵守すること

4.チーム内で感染者が出た場合の対応・対策について

(1)選手・指導者及び同居家族がPCR検査を受けた場合

- ①選手・指導者及び同居家族がPCR陽性検査を受ける場合は必ずチームに報告すること(普段からチーム内で連絡徹底を指導)
- ②PCR検査の結果が分かるまでチーム活動への参加は禁止すること
結果判明後速やかにチームに報告すること
- ③PCR検査の結果、陽性の場合は、感染者となり感染者は、発熱または咽頭痛や頭痛、倦怠感等の症状発出日から10日間(例：3月12日に発症した場合は、12+10=3月22日までの療養(発熱が続く場合は延長)
ただし、無症状者の場合は、陽性判明日ではなく検体採取日から、7日間(例：火曜日に検体採取した場合は次の火曜日まで)の健康観察期間(隔離状態)が必要であり、その間に発病した場合は、発症した日から10日間の療養となる。
- ④感染者の家族等は、濃厚接触者となるため、当該感染者がホテル・入院等に隔離された日の翌日から7日間の活動を禁止とする
なお、当該陽性者とその家族等がマスク着用・食事は別等家庭内での感染防止対策がなさ

れない場合は、当該陽性者の健康観察解除日の翌日から7日間の活動を禁止とする。(健康観察期間とは、上記③でいう10日間であり、家庭内で感染防止対策がなされない場合は最長17日間の活動禁止)

⑤同居家族等の濃厚接触者がPCR検査陰性の場合も上記④と同じとする

⑥報告を受けたチームは、陽性者の発症2日前にその陽性者がチーム活動に参加していた場合は大会開催中であっても活動を直ちに停止すること

濃厚接触者については無症状であった場合はチーム自体の活動を中止する必要はない

(2)選手・指導者等が陽性となった場合

①選手・指導者等がPCR陽性となった場合は保健所等が入院や自宅療養等の期間を指示するので、その期間は活動禁止とする

②チーム内で陽性者がでたら当該陽性者が発症2日前から発症後10日以内にチーム活動に参加していた場合は、当該陽性者がチーム活動に参加した最終日から5日間のチームの活動を停止する

なお、明らかに感染防止対策をとって濃厚接触者が出ないとチーム代表が判断できる場合はこの限りではない。ただし、2名以上の感染者が出た場合は、上記と同様の5日間のチーム活動を停止する

③保健所等の調査がチームに入れば、チーム代表及びチームの構成員は保健所等の調査に協力すること

※チームは集団であり個人への連絡またはチーム代表に保健所等から連絡が入る場合がある

(3)大会期間中の連盟等報告について

①大会期間中に参加しているチーム関係者に陽性者が判明した場合は、当該チームの代表者は、活動停止措置をとり、速やかに大会運営本部及び支部長を通じてブロック長に報告すること

②大会主催者は、本通達の「基本事項」に照らして感染拡大の恐れがあると判断した場合は、直ちに大会を中止・延期にするか、または、当該チームと対戦・接触したチームに対する出場辞退等を検討する。なお、判断に当たって「基本事項」に照らしても判断が困難な場合は、管轄の保健所等と協議したうえで決定する方が望ましい

③報告を受けたブロック長が感染拡大の恐れが高いと判断した場合は上記によらず連盟本部と協議の上、中止・延期等の決定ができることとする。また、連盟主催の大会においては、これを会長が判断する

(4)その他

選手、チームへの差別偏見につながることから陽性者発生情報に関しては、詮索、公表等については避け、プライバシー保護に努めること

以上、本ガイドラインを遵守した上でポーズリーグの活動に努めることとされたい

投手投球数制限の運用細則

令和3年5月8日
(公財)日本少年野球連盟

1. 投球数の定義

試合中に投手が捕手に向かって投げた球とする。

以下の場合、球数としてカウントしない。

①牽制球

②ボーク

※ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。

③当該打者へ申告敬遠を行ってからの投球数

※雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする。

2. 投球数の管理

①球場責任者は、スコアラー1名、投球数管理責任者と投球数管理者の2名を配置する。

②投球数管理責任者は別紙「投球数集計表」により記録する。

③もう一人の管理者は、カウンター、得点版(代用)等の器具を用いて投球数を計測する。

④イニング終了時に投球数管理責任者、管理者とスコアラーにより投球数を一致させる。

⑤投球数が一致しない場合は、3人のうち多い方を投球数と決定、3者が一致しない場合は投球数管理責任者の投球数を記録する。

⑥確定した投球数を次のイニング開始前にアナウンサーが球場にアナウンスする。

⑦投球数はイニング毎の投球数及びその投手の総数の投球数をアナウンスする。

(例「この回の得点は〇点、投球数は〇球です。なお、△□投手の総投球数は〇球です。」)

⑧各チームはアナウンスされた投球数と違うと判断した場合は、監督がタイムをかけて球場責任者及び投球数管理責任者と協議して投球数を決定する。

3. 運用・管理方法について

①当日の試合終了後、勝ち上がりチームは、「投手投球数記録表」(副3枚複写)を作成し球場責任者に提出すること。なお、当面は「投手投球回数記録表」(副)を代用して差し支えない。

②球場責任者は提出された「投球数記録表」(副)を上記2の投球数管理のもとに間違いがないかを確認し、「投手投球数記録表」(正)を作成、署名交付する。

③球場責任者又は勝ち上がりチームが責任を持って翌日以降の大会の球場責任者に対して、「投手投球数記録表」(正)及び(副3枚複写)を引き継ぐこと。

④翌日以降の球場責任者も①～③の手順に沿って投球数管理を行い最終的に大会本部に引き継ぐ。

第1回 遠州トラック杯
令和4年日本少年野球連盟静岡県支部秋季大会

優勝

決勝 9/23

②12:30 菊川球場

3位決定戦

菊川球場

9/23

①10:00

3日目

2日目

1日目

準決1

9/19

菊川球場

①10:00

準決2

9/19

菊川球場

②12:30

B1

9/10 ①10:00

浜北球場

B2

9/10 ①10:00

島田球場

B3

9/10 ②12:30

島田球場

B4

9/10 ②12:30

浜北球場

A1

渚園

9/3

②12:30

A2

南伊豆

9/3

②12:30

A3

葦山

9/3

②12:30

A4

南伊豆

9/3

①10:00

A5

葦山

9/3

①10:00

A6

渚園

9/3

①10:00

富士ボーイズ

浜松ボーイズ

静岡府中ボーイズ

島田ボーイズ

スルガボーイズ

修学舎ボーイズ

大井川ボーイズ

下田ボーイズ

御殿場ボーイズ

駿東ボーイズ

静岡葵ボーイズ

磐田ボーイズ

菊川ボーイズ

浜松北ボーイズ

スルガボーイズ

浜松修学舎ボーイズ

御殿場ボーイズ

浜松ボーイズ

代表	靱山 浩志
監督	工藤 隆
コーチ	椎田 清隆
マネージャー	鈴木 直也
10	主将 池谷 挑夢 2年
1	栗田 陸 2年
2	須川 駿生 1年
4	伊藤 佑一郎 2年
5	斉藤 真翔 2年
6	山梨 凌右 2年
7	芦川 愛斗 1年
8	井深 遼佑 2年
9	朝香 和士 1年
11	杉山 永晃 1年
14	池田 晴希 1年
17	古見 陽輝 2年
19	中谷 太智 2年
23	尾形 玲旺 1年
24	遠藤 悠陽 2年
25	平野 笑琉 1年
26	日向 雄星 1年
33	井上 誠大 1年
36	菅野 由翔 1年
41	石橋 侑馬 1年
42	椎田 悠太 1年
44	加藤 琉貴 1年
55	笠井 陽向 1年
77	野宮 幹太 2年

代表	大木 実
監督	宮澤 明聡
コーチ	倉島 裕貴
マネージャー	
10	主将 水野 颯大 2年
1	水野 希望 1年
3	伊藤 航 2年
9	藤森 幹太 2年
11	黒田 流星 1年
12	鈴木 喜弥 2年
13	寛 琢磨 2年
22	堀内 慶也 1年
24	松下 直矢 1年
25	金原 叶翔 2年
26	嶋野 響 1年

代表	芹沢 輝充
監督	山崎 元則
コーチ	長戸 宏高
マネージャー	勝俣 智史
18	主将 渡邊 琥太郎 2年
0	田代 權斗 1年
3	岩田 洋輝 1年
5	宮下 航青 1年
6	臼井 康平 2年
7	土屋 梗雅 1年
12	渡邊 樹 2年
13	星野 圭信 2年
14	徳村 優護 2年
17	小長井 悠希 1年
25	大嶋 日翔 2年
27	土屋 拓己 2年
29	勝亦 琉聖 2年
41	勝又 幹 2年
44	牧野 兼心 2年
63	太田 嵐 2年
65	宮下 勇人 2年
77	長戸 陸翔 1年
88	藤田 陽翔 2年
99	大木 裕翔 2年

代表	山本 浩士
監督	中村 永司
コーチ	鈴木 広達
マネージャー	岡部 僚
6	主将 久米 徠翔 2年
1	仲秋 旬輝 2年
2	粟倉 亨真 2年
3	井口 征大 2年
4	内藤 大翔 2年
5	小杉 亜蓮 2年
7	齋藤 叶夢 2年
8	梅谷 陸翔 2年
9	柴田 海真 2年
10	柳田 優 2年
11	石川 遥人 2年
12	伊原 祐翔 2年
13	村井 琉風 2年
14	古田 旬之介 2年
15	石田 新 2年
16	細川 旺芯 2年
17	大高 颯介 2年
18	岡田 風輝 2年
19	近藤 悠斗 1年
20	堀内 遥斗 1年
21	坂本 泉 1年
22	岩崎 佑篤 1年
23	森下 悠心 1年
24	斎藤 康陽 1年
25	小幡 隼也 1年

大井川ボーイズ

浜松北ボーイズ

磐田ボーイズ

下田ボーイズ

代表	森重 明	代表	富樫 憲之	代表	中村 好寛	代表	宮本浩和
監督	江塚 諭	監督	山道 伸之	監督	鈴木 克昌	監督	渡邊夏樹
コーチ	袴田 晋矢	コーチ	鈴木 理男	コーチ	鈴木 毅	コーチ	渡邊祐樹
マネージャー	酒井 秀敏	マネージャー	奥之山 泰之	マネージャー	中山 泰成	マネージャー	鈴野美穂子
23	主将 袴田 皓大 2年	2	主将 高塚 克己瑠 2年	39	主将 中山 嵩也 2年	8	主将 小川優人 2年
0	吉田 勘汰 2年	0	太田 凌雅 1年	0	鈴木 琉太郎 1年	1	大年洸也 2年
8	石橋 弘輝 2年	3	漆畑 威吹 1年	5	長江 慶士 1年	2	笹本歩夢 2年
9	鈴木 琉生 2年	5	鈴木 誠吾 2年	6	下川 大翔 2年	3	笹本真咲 1年
11	古川 奈尚 2年	6	村松 孝隼 2年	14	市川 太陽 2年	4	伊藤希 2年
14	大井 勇翔 1年	7	間部 翔太 1年	16	大石 比呂 2年	5	鈴木拓斗 1年
16	三橋 智成 2年	8	松下 歩叶 2年	17	竹下 陽那太 2年	6	高橋舵真 2年
17	北川 翼 1年	9	中村 心稀 2年	18	長谷川 力 2年	7	矢野平 1年
18	杉田 慶太郎 2年	10	一木 柊哉 1年	19	大石 葉琉磨 2年	9	土屋柚來 1年
21	大野 匠海 1年	13	袴田 悠聖 2年	20	鈴木 陽友 1年	10	渡邊球児 1年
22	曾根 蒼威 2年	16	松田 大和 2年	22	小笠原 太一 1年	11	村木陽太 1年
24	加藤 禅己 1年	17	松井 勸太 1年	24	坂下 聖 2年		
28	小宮 昇真 1年	18	森本 健太 2年	25	中村 太紀 2年		
29	杉田 倭 1年	21	堀内 哉真士 2年	26	大野 陽平 2年		
32	杉山 満己 1年	23	山口 恵叶 2年	28	水谷 映太 2年		
33	栗城 壘行 1年	25	青嵐 悠稀 2年	29	鈴木 泰介 2年		
34	池谷 遥飛 1年	26	鈴木 悠陽 2年	32	須田 湊斗 2年		
37	鈴木 隆太 1年	28	鈴木 峰正 2年	33	浅田 陽天 2年		
44	市川 航成 1年	29	絹村 聡太郎 2年	34	木下 翔瑛 1年		
46	石切山 湊心 1年	34	谷口 篤郎 2年	36	磯部 祐三 1年		
51	岡村 彰真 1年	36	佐藤 悠生 1年	37	杉山 栄 1年		
56	山本 創輔 1年	38	高橋 瑛人 1年	47	高尾 悠翔 2年		
77	永嶋 玲音 1年	39	林 朔太郎 1年	55	鈴木 琉喜弥 2年		
80	鈴木 遥斗 1年	41	濱本 亘 1年	88	齋藤 颯太郎 1年		
99	瀧野 七海 2年	46	木村 謙伸 1年	96	黒木 陸翔 1年		

島田ボーイズ

代表	山田 登	
監督	鈴木 亨	
コーチ	飛弾野 清治	
マネージャー	奥津 和長	
15	主将 大川 皓己	2年
1	加藤 琥大朗	1年
2	杉田 迅	2年
3	池谷 悠吾	2年
5	伊藤 広貴	2年
6	山本 琉聖	2年
7	増田 悠佑	2年
8	藤浪 ムサン	2年
11	中川 瑛太	1年
13	小川 陸翔	2年
17	鈴木 航	2年
18	鈴木 迅	1年
21	宮城 凜太郎	2年
22	長島 碧志	1年
23	植松 永途	1年
25	平野 光星	1年
28	杉山 斗真	2年
29	増田 駿	2年
31	栗田 怜旺	2年
41	見崎 賢汰	1年
46	大石 煌征	2年
47	見原 悠斗	2年
51	野口 修吾	1年
55	山野 碧真	1年
99	滝口 陽喜	2年

静岡葵ボーイズ

代表	芦澤 厚史	
監督	高柳 清彦	
コーチ	池谷 謙太	
マネージャー	石垣 大輔	
19	主将 青山 快翔	2年
1	向後 利来也	1年
2	青島 海都	2年
3	花村 健永	1年
5	曲田 優大	2年
8	和田 龍聖	1年
11	原田 俊希	2年
13	平川 侑汰	1年
16	岩成 航希	2年
24	鈴木 太志	2年
25	深澤 力吉	2年

富士ボーイズ

代表	瀧澤 佳孝	
監督	藤田 勝昭	
コーチ	瀧澤 将美	
マネージャー	大橋 一也	
33	主将 吉田 創哉	2年
1	中村 咲愛	1年
7	佐橋 颯汰	2年
11	海野 龍央	1年
17	栗田 青葉	1年
18	大川 昇真	1年
19	藤原 優志	1年
21	杉本 連	2年
22	山本 虎太郎	1年
24	内海 穰	1年
25	深瀬 一霸	2年
27	窪寺 耕二郎	1年
31	杉山 遼	1年
34	谷口 翔斗	1年
41	小林 然	2年
51	芦澤 憲一	2年
55	深澤 青空	1年
77	村上 淳彦	1年
99	横田 悠真	1年

静岡府中ボーイズ

代表	熊切 大介	
監督	望月 淳	
コーチ	松永 康裕	
マネージャー	大畑 真也	
6	主将 市野 晃大	2年
1	宇田 柊斗	2年
2	杉山 幸太郎	2年
3	濁澤 太士	2年
4	長倉 球児	2年
5	池島 江之助	1年
7	増田 大雅	2年
8	高田 琉	2年
9	大石 優太	2年
10	多々良 捷平	2年
11	井口 晋之介	2年
12	永嶋 雄輔	2年
13	成岡 紀漣	1年
14	森 奏喜	1年
15	松本 大輝	1年
16	伊東 隼	1年
17	櫻木 琉雅	1年
18	長谷川 聖輝	1年

駿東ボーイズ

代表	鈴木 貴司	
監督	松尾 良太	
コーチ	中川 清猛	
マネージャー	岩崎 望	
6	主将 宮崎 煌也	2年
0	佐藤 凜空	1年
1	大木 暖斗	1年
2	井原 大翔	1年
3	品川 幹太	1年
7	大嶽 壮生	1年
8	原田 楓太	1年
10	杉山 冬馬	1年
11	長澤 幸芽	1年
12	林 風雅	2年
15	原 千春	1年
16	岩崎 叶空	2年
17	池田 隆之助	2年
18	鈴木 陸翔温	2年
27	高山 佳士	1年
29	齋藤 直将	1年
31	小津 孝太郎	1年
32	石田 禅	1年
34	石井 裕基	1年
38	長島 優希	1年
55	岩崎 虹空	1年
63	井上 絢太	1年
66	豊島 捷生	1年

菊川ボーイズ

代表	池田 竜司	
監督	60 鈴木 修平	
コーチ	50 後藤 英希	
マネージャー	鈴木 芳美	
24	主将 渥美 凧海	2年
0	小金井 琳王	2年
11	矢部 侑	2年
13	鈴木 奏	2年
14	國川 翔輝	2年
15	原田 阿流把	2年
18	齋藤 隆太	2年
19	鈴木 颯真	2年
21	荒木 墨翔	2年
25	矢部 遼太	2年
26	長塚 颯汰	2年
27	大岩 翔斗	2年
29	鈴木 翔真	1年
35	匂坂 虎太郎	2年
40	岩田 瑠生	2年
51	笹瀬 琢斗	1年
55	西尾 颯月	1年
57	當摩 楽多朗	1年
58	小林 蒼空	2年
64	新 智也	2年
73	大森 寛己	2年
80	望月 理人	1年
82	加藤 永遠	2年
87	佐藤 楓馬	2年
88	井村 健志	1年